

授業概要

この授業では、劇作家ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の主要作品のいくつかを、主に翻訳を使いながら講読していく。作品の理解を深めるために、シェイクスピア自身、及び彼が生きた時代はもちろん、彼が活躍した16世紀末から17世紀初頭の、現代とは違う劇場の特徴、当時の上演状況などもくわしく考察していく。演劇を文学作品のテキストとして読むことの基本を学びながら、「せりふ」の持つ可能性に注目し、想像力を最大限に生かして豊かな演劇の世界を楽しむことができるよう授業を進めていく。

秋期の英語圏文学特論（古典）につながる科目である。

授業計画

第1回	イントロダクション：シェイクスピアの人物像と作品、時代背景について
第2回	シェイクスピアの時代の劇場とその環境について、現代の劇場との比較
第3回	シェイクスピアの歴史劇（1）『ヘンリー五世』
第4回	シェイクスピアの歴史劇（2）『リチャード三世』
第5回	シェイクスピアの喜劇（1）『ヴェニスの商人』
第6回	シェイクスピアの喜劇（2）『夏の夜の夢』
第7回	シェイクスピアのローマ史劇『ジュリアス・シーザー』
第8回	シェイクスピアの喜劇（3）『十二夜』
第9回	シェイクスピアの悲劇（1）『ロミオとジュリエット』
第10回	シェイクスピアの悲劇（2）『ハムレット』
第11回	シェイクスピアの悲劇（3）『オセロー』
第12回	シェイクスピアの悲劇（4）『マクベス』
第13回	シェイクスピアの悲劇（5）『リア王』
第14回	シェイクスピアのロマンス劇『あらし』
第15回	まとめとフィードバック
第16回	

到達目標

古典文学作品の持つ可能性をさまざまな観点からより深く理解するため、以下のことを目標とする。

- ・古典作品の成立過程の歴史的背景や文化的背景を理解できる。
- ・戯曲の台詞をさまざまなコンテキストに即して読むことができる。
- ・作品が上演された時代についての知識を得ることができる。
- ・古典作品が現代において上演される際の演出可能性を理解できる。

履修上の注意

講義科目ではあるが、文学作品の読み方を身につけ、自分で読むという意味では、実習科目でもある。授業で使用するテキストは、できれば翻訳を購入するか、図書館で貸出し、じっくり読んでほしい。また、授業中の携帯電話、スマートフォンなどの使用は厳禁とする。

予習・復習

プリントで配布したテキストの抜粋などに関しては、自分で読み、授業で学んだことを活かして再読すること。またセリフは音読してみるとよい。テキスト以外に授業で取り上げた内容について、自ら調べ、理解を深めるよう復習してほしい。

評価方法

予習復習の程度、授業への参加度、リアクション・ペーパーなどを点数化し、学期末に実施する試験と合わせて、総合的に評価する。学期末試験50%、各種課題25%、授業への取り組み25%。

テキスト

主要作品の抜粋などは、プリントなどを用いるが、購入してもらうテキスト、参考図書については、授業中に、随時指示する。